

令和3年度第3回地域公共交通会議 会議録

日 時:令和3年12月24日(金)10:35~12:10

場 所:南伊勢町役場南勢庁舎 3階会議室

出席者:18名(定数20名)

出席者のうち委任状による代理出席2名、委任状提出による欠席1名、欠席1名

- ・町長
- ・学識経験者(名古屋大学大学院環境学研究科 加藤教授〔副会長〕)
- ・住民代表(田畑委員〔会長〕、竹内委員、畑委員、馬瀬委員)
- ・社会福祉協議会(福祉有償運送) 上村委員、NPO 法人わがら理事長(自家用有償運送) 濱口委員
- ・一般乗合旅客自動車運送事業者
(新任:三重交通(株)乗合営業課服部課長、大新東(株)南伊勢営業所古市所長)
- ・一般貸切(乗用)旅客自動車運送事業者(三重県タクシー協会伊勢志摩支部長:三交タクシー)
- ・一般乗合旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転手が組織する団体
(伊勢志摩交通 松林労働組合長)
- ・中部運輸局三重運輸支局(首席運輸企画専門官)
- ・三重県(地域連携部交通政策課長 代理出席)
- ・南伊勢町(教育委員会事務局長、観光商工課長)

事務局:南伊勢町 環境生活課課長 瀬古、生活交通係 係長 長尾、奥村



- 1、町長あいさつ
- 2、会長あいさつ
- 3、報告 町営バス大方竈線の運行について
- 4、議題 1)承認 令和3年度地域公共交通確保維持改善に関する自己評価(案)について 別紙1
2)承認 「南伊勢町地域公共交通計画」に関する自己評価(案)について 別紙2
3)報告 自家用有償運送事業のエリア拡大について 別紙3
- 5、その他

1、町長あいさつ

11月13日から町長を務めさせていただいております。よろしくお願いいたします。

これからしっかりと自分が訴えていた、来たことを、いろいろ実現していきたいと思っておりますので、またその都度、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

地域交通会議、本当にご苦勞様でございます。いつもこの地域のために交通手段、すごく便利なようにと、皆様には、ご協議をいただきありがとうございます。

当町にとって、この交通手段の確保がとても大事なことであり、私もものすごく力を入れたいなという風に思っております。

地域は人口減少とか、すごく高齢者が多くて非常にマイナスな部分もありますが、私はマイナスと捉えておりません。これをなんとか打開して、新しい町を進めて、前へ進めたいなと、いつも思っていることですので、これからもそれをしっかりやりたいなという風に思っております。

また地域にとって、この町にとって、この交通手段というのは非常に大事なことでございますので、これからも皆様には、温かい、心強いご協力を賜りますようお願い申し上げまして、簡単ではございますけれども、冒頭の挨拶と代えさせていただくこと、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

2、会長あいさつ

年の瀬も迫ってきて、気忙しい中で会議を開催いただき、誠にありがとうございます。

行政のトップがお忙しい中、こういう協議会にご出席賜り、非常に有意義だと思っておりますし、何かにつけ意力的で、前向きな町長さんということで、これは、より情熱的な行動的な、加藤先生と相まって、この委員会でマッチングしたら、かなり、非常に勢いづくし、楽しいものになると思います。どうぞこれからの委員会も従来通り楽しんで、町の活性化の原点となる交通体系の部分について皆さん、これからも情熱を發揮して、ご参加くださいね。よろしくお願いいたします。

出席は、委任状の提出も含め19名。会議は成立するものといいたします。

3、**報告** 町営バス大方竈線の運行について

(事務局)

皆様にご協議、承認いただきました町営バス大方竈線は1月7日実証実験として、4月の本格稼働にむけ運行を開始することとなりました。皆様には書面決議等でお手数をおかけしました。

こちらのチラシを12月の広報と一緒に、全戸配布させていただきました。

このほか、開通に向けて、高齢者事業でもバスの説明をさせていただきました。

こちらは関連資料の新聞の切り抜きですが、南島東小学校で三重交通さんにご協力いただいて、12月16日、当町で初めての、「バスの乗り方教室」を実施しました。ニュースや新聞にも掲載されて、生徒さんも喜んでいただきました。開催は木曜日でしたが、その週末には小学生がバスに乗る姿も見られたとのこと。開通となる1月7日には、阿曾浦バス停留所におきまして出発式も予定しています。大方竈線については、子供から、高齢者まで多くの方にご利用いただき、地域の活性化を図りたいと考えておりますので、皆さんよろしくお願いいたします。

(田畑会長)

はい、ありがとうございました。

次は議題の本題に入りますね。承認事項一つ目は、令和3年度、地域公共交通維持改善に関する自己評価案ですね。事務局お願いします。

(事務局) ——資料1「令和3年度地域公共交通確保維持改善に関する自己評価(案)」の説明——

(田畑会長)

はい、ありがとうございました。

事務局案について、皆様からご意見等いただき、追加修正させていただきます。ご意見ございませんか。では、デマンドバス運行の大新東古市委員、「予約が取れない」等ございましたが、何かございませんか。

(大新東:古市委員)

予約できないのか、予約が取れないのか、不明な点もありますが、ニーズに応えられてないところがあるということであれば、その辺りは改善しなければならないと思います。役場さんといろいろお話しさせていただきながら、今後のこのようなことがないように、改善していきたいと思っております。

(田畑会長)

一生懸命していても、必ずしも人の心にサービスやニーズに行き届くとは限らないですね。

あまり、強行にいくと反発も招きますよね。また、具体的な改善点等を把握できたら、また改善して、更に良く向上していただけるといいと思います。では、他の委員さんございませんか。

(三重交通:服部委員)

大方竈線につきまして、今までに障害が多くて、なかなかいけない区間でした。今回このワンボックスカーの導入をご検討いただき、定時定路線が可能となりました。今後、学生さんやご高齢の方などに、定時定路線というのはやはり予約が必要ないという点で、利用しやすいと思います。そういったところも南伊勢町さんと協力しながら周知して、ご乗車いただけるように運営していければと思いますので、またよろしく願いいたします。

あと、維持改善計画の中にあつた乗り方教室ですが、開催いただきまして、ありがとうございました。

弊社の方でも今、三重県各地で開催させていただいておりまして、やはり乗り方がわからないというので、バスに乗らないという方も多くみえます。

その中で大方竈線も含めて、乗り方教室を弊社も協力させていただき、「もっとバスが便利だよ」というところをアピールしていきたいなと考えております。乗り方がわかって、小学生も学生の方も1人で乗れる様に覚えていただければ、という風に思います。また、ご相談いただければ、協力させていただきますので、よろしく願いいたします。以上です。

(田畑会長)

アピールは大切ですね。では、竹内委員何かございませんか。

(住民代表:竹内委員)

近所の方が、デマンドの予約をしている姿とか見ますし、孫がこの間の乗り方教室を体験して、早速時刻表

を見て、調べて、うちは贅なんですけど、「その時間やったら、奈屋や東宮に遊びに行けるかな」というのをちょっと調べていたりしたので、あんな教室していただくと、大変身近なものに感じて良かったなって、特に問題はなく、ああいうことは良かったなと思いました。

(田畑会長)

ほかになければ、承認を賜りたいのですが。加藤先生、よろしくお願いします。

(名古屋大学 加藤教授:副会長)

ちょっと細かいのが多いので、内容がわからなくて、こうした方がいいのではと言う事は、事務局に言います。

大事な部分として、昨年度までいつもこの12月、1月に評価をやっていますが、昨年度までは、この別添1の生活交通確保維持改善計画で、南伊勢町の場合はデマンドバスについては、フィーダー補助、フィーダーと言うのは「端末」(支線ですね)というものをもらっていて、補助をもらったら、こういうふうに自分たちがちゃんと補助をもらって、ちゃんとできたかを、自分たちで自己評価して、2年1回ぐらいになると思うのですが、第三者評価も受けるという、そういうプロセスになっています。

今回はないですね。

(事務局)

ないです。

(名古屋大学 加藤教授:副会長)

僕は推薦できるので、あげようと思ったのですが、大目に見ておきました。

昨年やっているのもあってですが、昨年度もフィーダーの評価がありました。資料2(別添4)の方が、実は今年度から増えています。これは法律が変わりまして、地域公共交通計画が3年3月にできたって書いてありますが、以前は、公共交通計画は「作ることができる」となっていたのですが、令和2年11月に法が改正されて、「作ることができる」から、「するよう努めなければならない」と努力義務になりました。

南伊勢町さんはそのときに計画を作っていたので、作ることに努めていて、できました。

そのことによって、国の方は、今までは作ることができるってことでしたが、作るように努めるということであつたとしたら、「国からお金を出すのだったら当然作っているとしかあげない」というふうになりました。

それとともに、お金をあげるのは、計画に貢献するためにあげるもので、デマンドバスのみのことではなく、南伊勢町全体の公共交通がどうなっているかも、きちんと自己評価して提出してください、という風になりました。と言うことなのでこの資料2(別添4)ができたということです。

今回、中部様式は作ってないですね？

(事務局)

はい。

(名古屋大学 加藤教授:副会長)

中部様式は作った方がいいと思います。

中部様式というのは、これと別に、パワーポイントで、大きい字でわかりやすく1枚とか何枚とかで作成するものです。第3者評価委員会があると作成しなければなりません。

この資料2(別添4)は、国も地域公共交通計画がどのぐらいできているかをちゃんと調べて提出しなさい、というふうになったのでこの様式が増えました。

その上で、資料2(別添4)というのは新しいもので、新しく書き起こしたことばかりで、そうなる少し注意するところなのですが、大方竈線のことを書いてありますが、これは1月運行開始なので対象外です。書くとしたら「大方竈線を運行することになっている」という右側の課題の欄に書いて、左側の取り組みには、書かない。別にそのことで価値が下がるわけではなく、来年はやった、でやってどうなったかっていうことになります。それが1点目です。

それから、横断歩道の安全性が確保されていないバス停についてです。これは船越でいいですか？

(事務局)

はい、船越です。

(名古屋大学 加藤教授:副会長)

これ、横断歩道は削除という形でいいですか。

(事務局)

はい、削除です。

(名古屋大学 加藤教授:副会長)

右側の方(課題や取組)に、同じことが書いてあるので、令和3年度中にその削除ができるのであれば、そこに書かなくて良いです。つまり令和3年度中にできそうなので、課題の欄にはいらぬです。

それから、子供たちの最大滞在時間と、検索アプリ数に関する目標ですが、現状維持と達成とは違います。現状維持だとすると、達成しているわけではないので書かなくて良いです。

これ、全体にそうですが、本当は今年度の目標があって、今年度中に達成できていることは書いたら良いし、今年度中の目標がない場合は、未達成ではないから、達成かそうでないかは書かなくて良い。他も同じです。3頁目が目立っていたので、言いました。

むしろ、現状を書いていた方が良い。いろいろ、言いましたけど、あと細かいところは、事務局に言います。以上です。

(田畑会長)

加藤先生より教えていただきました。

(名古屋大学 加藤教授:副会長)

すいません。今、議題1でしたが、私、議題2の別添4(資料2)についての意見を申しました。

(田畑会長)

加藤先生のご意見で、事務局、修正ですね。修正後、会長に一任していただき、提出します。

で、他の委員の皆様、ご意見等ございますか。

では、承認でよろしいでしょうか。（他委員、賛同）ありがとうございます。

続いて、このまま、議題2へ入ります。

事務局、よろしくお願いします。

（事務局）——資料 2「地域公共交通計画の評価等結果(案)」の説明——

（田畑会長）

今回は、フィーダー系統だけでなく、地域間幹線とか、デマンドバスとか、すべての状況を分析しています。先ほどの加藤先生のご意見は、このまま「生き」でお願いします。

（名古屋大学 加藤教授:副会長）

1頁目のデマンドバスですが、平日でも土日祝でも同じように運行していることを、変えていくと書いてありますが、この会議の場で議論したことはありましたか？

（事務局）

いいえ

（名古屋大学 加藤教授:副会長）

であれば、書かない方が良いでしょう。議論すれば良いと思います。いいと思うのですが、意図がわからないので、「土日祝は利用が少ないので」「減らしたい、若しくは、使いやすくするため増やしたい」とか、「土日だと観光向けにもっとこうする」など、そういう意図がわからなかったのです。

それについては、議題を立ててやることであるとも思うので、ここで書いてしまうのは早急かと思います。議論した方が良いでしょうので、やれば良いと思います。

それと、3頁目のデマンドバス利用における来訪者数について、0.275%だと分かりにくいので「何人」と書いた方が良いでしょう。これは、今目標となっているのであげていますが、次年度への課題に何も書かれていないので、もしやるのであれば、何をやらなくてはならないと書いた方が良いでしょう。一方で今はコロナなので「今はこの目標は優先度が低い」或いは、「今はやるべきではない」とはっきり書いた方がいいかなと。将来的にはデマンドバスをどういう風に利用していただくか、先ほどの土日運行の話もそうですが、例えば、高校生とかであったらスマホ予約の方が扱いやすいので、高校生にはスマホ予約、ライン予約ができるようにして、高齢者の方には電話予約を残す。勿論、お年寄りでもネット予約もできて、出来る方もあって、そういう風な取り組みをしていく。それがいいですね。

先ほどの運行も含め、そう言ったことを検討していくと書いた方がいいです。是非、次の会議とかで議論していったらいいと思っているので、「これから検討していく」とここに書いたら良いと思います。以上です。

（田畑会長）

ありがとうございました。ほかの委員の皆様も、ご意見よろしかったでしょうか。

交通事業者さんも、仕事もらっているからとか、補助金をもらっているからなど、遠慮せずに、何でもご助言くださいね。

では、皆様、加藤先生のご意見を含め修正をします。内容については、承認いただけますか？

(全委員) 賛同

ありがとうございました。

では、議題3にうつります。これは報告事項となっております。

NPO法人「わがら」の濱口理事長からです。現在の事業の状況等も含め、ご説明をお願いします。

(濱口委員:NPO法人「わがら」理事長)

NPO法人「わがら」の濱口です。よろしくお願いします。

議題3にありますように、自家用有償運送事業のエリア拡大についてです。

エリア拡大と書かれておりますが、私どもとしては、目的地を限定した、ルート追加として、協議要望に上げたいと思っております。本題に入る前に、簡単に「わがら」の現状を報告いたします

会員数としては前回に報告した数とほぼ変わりなしですが、56世帯の75名の会員です。残念ながら今年度中に5名の会員が退会されました。内3名がお亡くなりになり、2名が施設入所されました。

自家用有償の送迎ですが、昨日までで、回数としては443回、キロ数、距離としては、543.1kmと、このような状況と思っております。

本題に入ります。送迎先の追加要望として、まず一つ目が、町立南伊勢病院です。

現状として、会員の中でデマンドバスを利用して、町立病院に通院されている方も何名かおられます。基本的にこちらとしても、デマンドバス、町営バスを利用して、通院していただくというのが基本であって、今までは自宅からデマンドバスの乗降位置への送迎を考えており、実際に自宅からデマンドバスの乗降場所まで歩いていくことが困難という人が、おられます。

その他、高齢者の方ですが、やはり自分の行動がかなりスローになりますので、人に迷惑をかけてしまうと思ひ、バスを利用できないという声も多く聞かれます。

他にお1人の意見でしたが、難病の方が特別な血液が必要になる場合があり、今までは伊勢日赤に通院されていましたが、町立病院に転院され、送迎をしていただきたいというような要望がありました。

しかし、現段階では地区内だけと言うことで、入会についてもお断りし、保留になっています。

その他、体調不良時、体調の悪い時、そう思ったときにパッと時間など気にせず、通院したいとの声もあります。

それに加えて、町立病院から聞いた話ですが、町立病院に入院していた患者さんが退院する時に、それまでの主治医で継続して経過を診ていただき、町立病院に通院するというのがベストだと思うのですが、やはり、先ほど言ったような理由から、デマンドバス等の利用が困難、できないという人が宿田曾診療所にかえていただく、そういう措置をしてもらっている患者が数名みえるそうです。

私どもの方に町立病院の方から、デマンドバスの乗り降りする場所まで送迎を頼めますかと、要望があったのですが、当然、私どもも受けましたけど、実際的には、そのような要望は、きておりません。

やはりバス等の利用がしづらいところがあるのだと思います。

そういった意味で、まず、町立南伊勢病院を1つ要望にあげたいと思います。

もう一つが、志摩市になりますが、志摩市南張の「別當クリニック」で、宿田曾からもかかりつけ医として、通院されている方が結構います。これは宿田曾診療所が一時期なくなった期間があり、別當クリニックがありましたので、今の診療所が開院する前まで、そこへ通院されていて、その後も継続して通院されている高齢者がかなりいます。

当会員にも、数十名います。その人達は、殆どうちのこの送迎サービスは受けておりません。やはりサービスの主になるのが送迎サービスということになり、皆さん会員には入っておりません。そこで、何名かの別當クリニックにかかっている会員の方に聞いてみたのですが、やはりバスを利用できない、していないとか、シルバーカーは手放せないという人、または乗り降りが怖いという人、それと、先ほどデマンドバスでも言ったように、やはり自分の動作がかなりスローなので、ちょっと他の乗客に迷惑をかけるということで、バス等の利用ができないというのが、大半の意見でした。実際にバスを利用して、通院されている方もおられます。

また一つ例を、あげるのですが、バスを利用していない高齢者は親戚又は知人に頼んで、送迎をしてもらっています。その殆どが、お仕事を休んでもらっての送迎となっているようです。ですので、定期健診なら、予定して送迎してもらうことが可能ですが、普段よりおかしい、そういった時に本来は通院となりますが、わざわざ仕事を休んでもらって、送ってもらうことはできないということで、遠慮してしまいます。そういった高齢者が現にありました。

私が訪問すると、少し体調がおかしいかなと言う話がありました。それで、いろいろ話を聞いてみると、少し足が浮腫んでいる。いつもだと2日くらいするとひく(治る)のが、なかなか治らない。ただ、痛みとかもないので、人を頼んでまでの通院は我慢しているという話でした。それで、私が急遽休みをとって、私が連れていきました。連れて行ったその場で、意識不明になりまして、3日後にお亡くなりになりました。

また、その後も、そういった普段違って体調がおかしいということをいう高齢者がいまして、他の人には少し頼み辛いと言うことで、先ほどの1例もありましたので、そこも私、が急遽休みをとり、個人的に送ってきました。その高齢者の方も、伊勢日赤の方に即日入院され、まだ退院されておられません。

そのような状況を見ると、やはりちょっと、そういったバス、デマンドバスを利用できていない高齢者、それで、それで「わがら」の会員になっている高齢者を送迎してあげたいという思いがあります。決して、今現在、バス、デマンドバスを利用しているお客さんをそのまま当方が代わって乗せていくというものではありません。基本はとにかく、デマンドバス、三重交通さんを利用してもらうというのが基本になり、そしてできるならば、そういった中継を私たちはさせていただくというようなことですが、今現在、どうしてもバス、デマンドバスを利用できていない会員さんに限って送迎をしてあげたい、というのが私たちの強い思いになりますので、今回、この交通会議に協議要望として挙げさせていただきました。

この場で即決するものでもありませんし、いろんなご意見をお願いしながら、できたら良い方向に進んでいけるようにと思っております。説明としては以上です。

(田畑会長)

ありがとうございます。濱口委員からサービスエリアを拡大したい、つまり、ルートを追加を、お認め願えればということで、具体的なものとして一つは町立病院、二つ目が志摩市浜島町南張にある別當クリニックとのことで説明がございました。その背景も事細かに、ここで、説明をしてくれたわけです。皆さんに意見を賜り、先に申しましたように、結論的なことは次回会議以降でとのことです。では三重県交通政策課さん、いかがですか。

(羽田委員代理:三重県交通政策課係長)

本日課長の方が欠席のため、私、濱口が出席させていただいております。

三重県としては、地域間幹線系統との競合と言う部分があるのかと思います。

バスを利用し辛い方との説明があり、そういった、お客様だれしもですね、移動ができるような手段を検討していくことという事は、これがやはり重要なことになってきますので、今の「わがら」様のご案内、ご説明をお聞きした範囲内では、地域間幹線系統利用との競合という部分については、何ら問題はなく、若しくは、きちんとそういった利用したい方への移動手段の提供という意味でいけば、もう地域間幹線云々の枠に捉われず、是非ともこれを実現していただきたい取り組みではないかと、若干私の個人的な意見となっておりますが、思っております。

ですので、私がお聞きした範囲内では、このルートの追加、是非ともこれはご承認いただきたいのではないかと思います。

(田畑会長)

ありがとうございました。ほかに、交通事業者さんのご意見も必要かと思います。三重交通、服部課長さんいかがでしょうか。次は大新東古市所長ですので、用意しておいてくださいね。

(服部委員：三重交通(株)乗合営業課)

本当に地元をよく見ていただいて、いろんな利用できない方のご検討をさせていただいて、本当に素晴らしいなというふうに思っております。

我々として先ほどもお話にあったように、やはりそのバスに乗るのが怖いとか、シルバーカーで本当に利用できるのかというところが多分、不安に思われている方が、多くみえるのかなということを感じました。

改めて、この地区でそういったバスについても、もう昔と違って低床になっておりまして、他の地域でも、カートを使って利用していただく方もたくさんみえますし、それからゆっくり降りられる方もたくさんみえるので、実際にご乗車いただいたら、そんなに怖いものではないということ、やはり周知できてなかったのかなというところで、大変申し訳ないなと思っております。

それと、南伊勢町さんの次の頁の資料、先ほどお話があったように、地域間幹線の宿浦線がこちらの方を運行しております。こちらは学生の利用も非常に多くて、朝の本数も多くございます。今1時間に1本程度というところで往路復路の設定もございまして、先ほど「わがら」様から話にあったように、その中にバスを少しでも利用してくれる方も見えるということでもあり、三重県さんには先程言っていただきましたが、やはりそういう方がこの路線バスを支え、なくさないでいくと、というのが現状でございます。

ですので、我々としてはできれば、もう少し乗り方教室とか、その不安に思われている方にしっかり、「バスは安全なので心配ないですよ」、「ゆっくり降りていただいても問題ないですよ」、というその恐怖心を拭えるように、努力し、路線バスは学生利用もあり、おそらくこの利用が少なくなってくと、その学生が今度困る事になる可能性も出てきますので、そういった方に不安を払拭することから、していきたいなというふうに思っております。

また皆さんのお知恵等お貸しいただければと思いますのでよろしく願いいたします。

(田畑会長)

ありがとうございます。話を聞いて、デメリットともメリットにしていこうかというその姿勢はやはり三重交通さんらしいですね。キャリアがあるなと思いますね。

古市所長、競合が出てくると私が一番心配している、共倒れが一番怖いのですが、共感していくという観点

も大切ってことですね。いかがですか。

(古市委員:大新東)

先ほどの濱口さまからのお話しの中に、デマンドバスでもあるような話がいくつかありました。

実際ですね三重交通さんと町営バス、デマンドバスが運行していて、集落からバス停までの歩いての移動というのが、高齢者の方には少し辛いところがあって、その集落に入っていくデマンドバスというのが動いています。

ですので、乗降位置までの往復が辛い、だから更に私達が作っている乗降位置までも歩いて来られないお客様というのが、宿田曾地区にもいらっしゃるのかなと、だからバスのサイズといいますか、バスの用途といいますか、バス停があって、デマンドの乗降位置があって、更にそこまで来られない方々を今から「わがら」さんがやろうという風に思われているのかな、というところですよ。

実際デマンドバスも、利用条件の大前提で提示しているのが、1人で乗降できることになります。

1人で乗降できない方は介助者が無料で乗車できますので、お付き添いの方と2人で乗車ください、時間もかかるとは思うのですが、その辺の時間を少し言われていましたけど、乗降に係る時間というのがスローだという事は、ある程度見込んだ時間設定になっていて、あまりそこは気にしてもらわなくてもいいのですが、三重交通さんと同じで、私の方の周知が足りていないところがあったのかなあというところも、感じたところではあります。

ですので、実際に資料3-4で利用者数が出ていますが、実際は田曾浦では11月に往復で大体70名程度ご利用いただいています。

ということで、今までの現行からいって、お客様の利用目的というのは、買い物等病院、ということで、私も11月の目的地を見てみたところですね、やはり「ぎゅーとら」に行かれる方が3割ぐらい占めるのですが、他に「関岡クリニック」や「町立病院」が3分の1ぐらいご利用いただいています。

ですので、「わがら」さんが要望しているのは、私達が乗せていない乗客の方でターゲットにされているのかなという風に感じました。競合に関して言うと、その声が出てない人っていうのは、多分乗っていただいているのかなと思います。

デマンドバスに本当に乗れない方の声がここに切実に現れているのかな、というふうに私は感じました。

ですので、皆さんの方でご協議いただいて決めていただければいいのかなとは思っています。私自身が今聞いた説明の中で思ったのはそういうところですよ。以上です。

(田畑会長)

それではあと3人ぐらい予定しています。

次はね、上村委員。福祉有償運送事業者として、教えてもらえませんか。

(上村委員:南伊勢社協)

うちの対象者としてはもう介護認定されている方や、1人世帯とかで、連れていけないとかという方が、対象で、限定的なものになっています。病院も町内にある病院か、伊勢市など他市町の場合、それは町内の病院にない診療科の場合です。これを皆さんが利用されているので、「わがら」さんみたいに、もう会員になっていただいて、いろんなサービスを受けてもらうのとか、補助していただけるということで、ちょっと社協ではしてないところをカバーしていただいているので、すごいいいことかなと思っています。

(田畑会長)

ありがとうございます。では、三重支局の鈴木専門官、注意点などありましたら、よろしく願います。

(鈴木委員:中部運輸局三重運輸支局)

そもそもの話しになりますが、自家用有償損というのは伸ばしとか、タクシー事業のない地域の中で、輸送手段の確保が必要な場合に、必要な安全性上の措置を取った上で、市町とか、事業者さんが自家用車を用いて運送していただくサービスということですので、道路運送法の許可を持ったバスとかタクシーがある既存の交通機関がある場合は、安全安心の面から、やはりそちらを活用していただきたいというのが大前提とするところでございます。

先の濱口さんの説明の中で、カートを使ってバスの利用が怖いとか、乗り降りに時間がかかると、そういうことがあったということですが、三重交通さんからもお話があった通り、そういった不安を払拭できれば逆にそういった方についてもバスを利用してもらえるのではないかと、需要が増えるのではないかとという可能性もあります。

ですので、三重交通さんも言われたように、乗り方教室とか、そういった不安を払拭するような取り組みをすることによって、逆にバスの需要が増えるという可能性もあるのかなというふうに思いましたので、こういった事業の議論も必要だと思いますが、そういった観点でも考えていただいた方がよろしいかなというふうに感じたところでございます。

(田畑会長)

ありがとうございました。

これまで各委員さんから申請の意見をいっぱい出て、参考になる意見を聞かせていただきました。

あとは加藤副会長に、総合的にご意見をいただきます。願いますね。

(名古屋大学 加藤教授:副会長)

副会長ですね。もう大体、答えが見えてきたのかと思います。

「怖い」、或いは「時間かかるから迷惑かける」とかは、一切考えなくていいです。それを言っていると、いつまで経ってもできないです。むしろできるチャレンジをしてほしいと思います。これはお願いです。

名古屋ですと、市営バスなどは全車両ノンステップバスです。そうしますと、本当に時間がかかって乗車する人がみえますが、昔だとイライラする人もいましたけれど、今は殆どそういう人はいないし、むしろお手伝いする方がいます。荷物とかあって大変そうなら、僕もそうですが、運んだりしてあげます。そこをきちんとやるというのが大事です。だから、実際乗られているのが、そういう町民の皆さんにも、「やさしい公共交通」であるというのが大事なので、もしそういう方がみえて、舌打ちするとかは絶対駄目です。自分達が将来そうなる可能性がありますよね。手伝ってあげる、そういう心を持って欲しいです。

これをきちんと呼びかけていくことと、とは言っても、不安はなかなか解消できないので、その「乗り方教室」をするっていうのは、やはりちょっと体が不安な方、或いは自信がない方に自信をつけていただくものとして実施していくことが大事なので、それはぜひやって欲しいですね。

それから、とは言っても、もう要支援とか、先ほどの自力で動ける、動けないとかありますよね。

まず自力で歩けるけど停留所が遠いのであるのなら、デマンドバスの乗降位置の増設を考えてほしい。

ここにあれば、ここまでだったら歩けるので南伊勢病院まで、これでいけるっていうことであつたら、その停留所の増設を是非、宿田曾地区の中で考えていただけたらいいと思います。

それから、南張の別當クリニックですが、これ位置を確認しましたけど宿浦線「南張口」停留所の前にありますね。一つだけ問題なのは、宿田曾地区から「南張口」までの運賃が 370 円です。この運賃がこれで本当にいかどうかっていうのは、もっと南伊勢町内の料金に近いぐらい低減できるような保障をすとか言うのが、宿田曾の場合はそちらのほうが近いので、そちらに行けるようにすると言うのは一つの策として考えた方が良くと思います。ちょっと高いというのもあります。

それから、停留所まで出てこれないと言うことだったら、停留所まで送っていただければいいということになるし、あと、もし本当に自力で動くことが難しいという方であつたとしたら、今、上村さんの話が出たのですが、そこは「福祉有償運送」の領域に入ります。「福祉有償運送」というのは、普通の公共交通が自力で動ける人が利用して、自力で動けない方、介助が必要である方は、福祉有償運送の領域に入るのですが、今のこのやっておられる運送で「福祉有償運送」的なことをやるということにすればいいと思っていて、その時の考え方としては、「福祉有償運送基準」がありますが、いわゆる「障害者の方、或いは要介護、要支援の方」だったら、「該当する」となります。

それから、基本チェックリストあつて、町がケアマネージャーさんなどと話をして、その中で、要支援程ではないですが、体が動かなくて、バスやタクシーとかに乗るのは、自力では難しいっていうふうに、ケアマネさんがチェックしていただいたら、「その方は公共交通を自分で使うことが難しい方です」というふうに認定して、その方は、例えばこの別當クリニックまで直接送っていける、或いは南伊勢病院も直接送っていけるといふように、そういう方はそこまで使えるとする。なので、そうじゃない方は、できれば自分で行ってほしい、むしろ自分で行ってくれた方が弱らないわけです。全部を億劫だからとかっていうのは、弱る原因になるので、そこまでは頑張ってもらっていて、もう弱ってしまっている場合は、そういう認定をすれば、別當クリニックとか南伊勢病院へも送っていくこともできるっていう風に、何段階にもわけて考えた方が良くです。

もう一度繰り返すと、別當クリニックでも、南伊勢病院でも、バスで行ける人は、行けるはずなのに、「不安」だとか「怖い」方は、1 回練習をしていただいて、不安を解消し、さらに地域や町内の皆さんもそういうことに対して、「そんなの迷惑だ」とかっていうのは、決して思つてはいけません。

ということ、今バリアフリーの世の中なので、そういう言葉自体があつてはならないことです。お年寄りだと遠慮される方もみえますけど、頑張っても早くできない方はそれで良いので、そこは暖かく見守っていく社会にすることが大事です。そういう上で、バスとかデマンドバスに乗っていただく。

もちろん教育もきちんとやっていただきたいです。こういう時に運転手さんが心無い事を言うことで傷つく事がよくあるので、注意して欲しいです。

それが第 1 のセーフティーネット、第 2 のセーフティーネットは、それでも家から遠い方にはデマンドバスの停留所の増設とか、今やられている移送で停留所までいけば、バスに乗り継げるということを推奨する。更にそれも難しい方は、先ほどの福祉有償運送基準に照らして、「自力で動けない」となっていれば、やはりそれは全然、もともと動けないので公共交通に乗れない方だから、そういう方は、別當クリニックや南伊勢病院まで送って行くっていう風な 3 段階で整理したらどうかと、少し思っています。

なので、区分されるのですが、区分されるそれぞれの体や心の状態に応じて、「まだまだ行けるから、是非こうやってチャレンジしてみない？」という方から、あなたは本当に難しいので、うちで送迎していきますよという風に区分けして考えていただくとわかりやすいということなのですが、どうですか。できそうですか？

(濱口委員:NPO法人「わがら」理事長)

私どもの方で送迎している方は、ほぼ、要介護の方です。要介護認定の方でシルバーカーをひいても、普通の方のように歩けないと言うのがありまして、要支援の方もみえますが、ほぼ100%要支援以上です。なので、要支援、要支援2以上の方がちょっと困っているという状況を解決してあげたいと言うのが、こちらの要望です。

(名古屋大学 加藤教授:副会長)

わかりました。要支援以上であれば殆ど問題ないと思います。

勿論、要支援だからつかえるというのではなくて、要支援であっても「自分はバスに乗りたい」と言う人はご利用いただければ良いです。そこは、ご本人の意思を尊重していただければ良いと思います。

こう言った介護保険のような認定はされてないけど、また認定は受けたくないけれど、利用が難しい方は、先ほどのチェックリストがあるのでそれも活用してもらえば良いと思いました。その辺少し細かく検討して、こういう方だったらつかっていいというふうにされるのが一番いいのではないかと思います。

(田畑会長)

ありがとうございます。

時間がきてしまいました、女性の意見をお聞きしたかったのですが、帰ってからも、思うところあればまた機会を設けますので、また次回、よろしく願います。「わがら」さん、大きな夢を持ってね、前向きにチャレンジしてください。

それから、教育委員会さん、「バスの乗り方教室」などは、こういうことに有効ですね。

(山本委員:町教育委員会)

今回、南島東小学校を対象に実施していただいたのですが、他の学校でも実施してほしいとの声が出てきています。また、三重交通さんをお願いして、機会を設けていきたいと考えております。

(田畑会長)

それと、観光商工課長さん、今までのお話しでやはり乗客を増やそうと思うと、町内の住民だけでなく、町外から、「観光客」と言うことが出ました。いかがですか。

(島田委員:町観光商工課長)

近隣の伊勢志摩国立公園の協議会が、ハイキングイベントなど企画してくれますので、その時にデマンドバスの活用などもお知らせさせていただいており、いろいろ広めていきたいと考えております。

(田畑会長)

そういうことで、みんなで知恵を集めると町民にやさしいまちになると感じています。女性委員の潜在的なパワーをいただき、男性委員のフォローもありますので、皆さんの力を発揮して、これからもこの委員会をやっていただきたいと思います。

では、初めて町長さんに委員となっていたいただきましたし、町長としての挨拶はしていただきましたが、最後に閉めのお言葉をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(上村委員:南伊勢町長)

ありがとうございます。今日はどうもご苦勞様でございました。

本当にいろんな意見を聞かせていただいて、私はいつも、これから時代は「4輪でまわしていかないかん」と言う言葉を使っているのですが、今までは行政、議会の2輪で頑張ろうということでしたが、これからは4輪で、ということをお話しております。それは議会、行政、そして、ここに住んでおられる町民の皆さん、そして外の協力者、いかにそれを増やしていくかっていうのはこの町にとって重要であると思っております。

また選挙戦の時に、「住民に寄り沿う形を作りたいんや」、「そういうまちづくりをしたんや」、また今言われたように、教育委員会、観光商工課に会長の方から言われておりましたけれども、やはりそういうそれぞれの課だけではなく、その壁を取っ払いたいということで、今そういう動きを進めさせていただいております。これからの時代はそういう時代が来るのかなという風に思います。

正しく、自分が目指しているところの、今日の会議はその一つかなという風に感じております。

また田曾浦地区(わがら)さんの取り組みは、濱口さんは防災から何から何まで田曾浦のことを、みんな受けてやるような方でございますので、地域のことは、地域毎ものすごく把握してみえる方でございますので、何とかやはり困っている方を助けたいという思いがあると思います。私も理解しておるところでございます。

そういうことで今日は初めて出席をさせていただいて、こういう会議っていうのはやはり自分が出てですね、肌で感じるのは大事だという風に思っております。

この会議が始まる前に少し、副会長の加藤先生にお話をさせていただいたのですが、非常にユーモアがあって、ものすごくこの地域のことを認識してくれているなど感じております。

交通事業者、三重交通さんや大新東さんにしても、非常にこの町のことにに関して、ご協力をいただいております、本当に感謝申し上げます。

また、委員の皆さんにおかれましても、毎回会議を進めていただいて、素晴らしい計画を作ってください、我々もそれを受けて、町民の皆さんに伝えて、一つ一つ課題解決をしていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

またご協力いただきたいと思っておりますので、私も精一杯全力でやりますので、ご協力ください。本当にありがとうございます。

(田畑会長)

ありがとうございました。

これは念押しですが承認事項が2つありました。改めまして、皆さんの意向を反映するために、この原案を会長の立場で、主旨は変えずに、ご意見を反映し、カットするところもさせていただき、そういう作業をご一任いただくということで、よろしくご了承ください。(委員賛同)

今日は素晴らしい会議で皆さんの思いが伝わってきましてね、これからもその調子で進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

皆さん、では暖かくして、良いお年をお迎えください。来年もよろしくお願い申し上げます。

閉 会
